



講座運営委員会 田中リーダー

2015 年実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座

《講義録1 限目》

記録：講座協力委員 中島光明

《講座のメインテーマ》

防災の実践事例を学び、地域力で生き延びる

◆開催月日：2015年10月8日(木) 13:30~17:00 ◆開催場所：KU ポートスクエア



～ 講座をはじめるにあたって ～
防災塾だるま塾長 荏本孝久 氏

◆本日のテーマ◆ 災害の発生と復興のまちづくりを評価する

前半：基調講演（防災まちづくりの重要性など）

講師＝荏本孝久 氏（神奈川大学工学部教授）

後半：講座参加者の自己紹介

私のプロフィールと講座に参加して期待すること



《基調講演の内容》

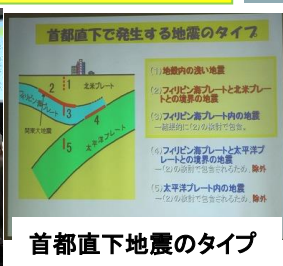
1. 地震の発生機構と近年の大地震
2. 首都圏直下地震と地震災害のイメージ
3. 神奈川県被害想定(2013 年度版)
4. 横浜市の地震被害想定
5. 近い将来発生が危惧される大地震と対応
6. 防災まちづくりの重要性
7. これからの防災・減災対策とまとめ

《まとめ》

★神奈川県は地震災害の危険性が高い地域

★地震被害想定は、地域特性が考慮されていて、
地震災害の認識を高めるのに有効

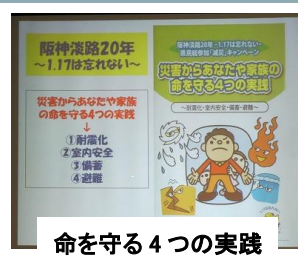
★地域防災・減災活動を加速・推進することが必要



首都直下地震のタイプ



横浜市の地盤



命を守る4つの実践

●「実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座」は、「神奈川大学と防災塾だるま」の共同企画

●今回 10 回目の開催となり、延べ 330 名以上の人材を輩出、今回の受講者は 43 名

●自己紹介では、防災に関心のある皆さんの熱い思いが伝えられ、講座の成果が非常に楽しみ



進行：山田美智子さん



自己紹介の模様 A



自己紹介の模様 B



会場のみなとみらい地区

2015 年実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座 《講義録2限目》

《講座のメインテーマ》

防災の実践事例を学び、
地域力で生き延びる

記録：講座協力委員 佐藤忠文

◆開催月日：2015年10月15日(木) 13:30～17:00

◆開催場所：KU ポートスクエア

◆本日のテーマ◆ 国県市の防災対策と今後の動きを理解する

前半：新しい神奈川県地震被害想定調査の結果と今後の地震対策を考える

講師＝杉原英和 氏（神奈川県災害対策課長）

後半：神奈川県医療救護計画について

講師＝松下圭吾 氏（神奈川県健康危機管理課

健康危機管理グループ課長代理）



進行：高松清美さん



前半 《神奈川県の地震被害想定調査の対象》

8. 地震発生の切迫性が高いとされている地震(例：都心南部直下地震)
9. 法律で対策強化の地域指定に用いられる地震(例：南海トラフ巨大地震)
10. 地震防災戦略・地域防災計画・中央防災会議等において対策の対象としている地震(例：大正型関東地震、三浦半島断層群地震)
11. 発生確率は極めて低い、発生すれば甚大な被害(例：元禄型関東地震)

《被害想定結果(平成 27 年 3 月)》

大正型関東地震

- ・死者 約3万人(圧死 1.5 万 水死 約 1.3 万)
- ・負傷者 約 5 万 6 千人
- ・全壊 約39万棟 半壊 約41万棟

《今後の地震対策》

- ・「神奈川県地震防災戦略」の見直し(平成 27 年度中)
死者数など人的被害の軽減：耐震化、避難情報伝達
- ・「神奈川県地域防災計画」など各種計画の見直しや、
「国土強靱化地域計画」の着手

後半 《災害医療の概要：災害フェーズと主な対応》

発災～1週間 DMAT、日赤救護班：トリアージ、応急治療、搬送

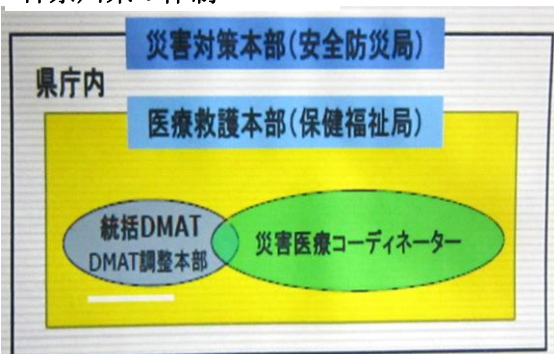
3日 ～1ヶ月 災害医療 医療救護班：医療支援

各種保険予防：避難者健康管理、心のケア、感染予防

後半講師 松下圭吾氏



神奈川県の体制



《主な対応》

- 情報の収集と伝達
- 医薬品等・血液製剤の確保
- 傷病者の搬送
- 保健対策(健康管理・健康相談)
- 要援護者対策(難病者、人口透析患者など)

今日の一言：「救助される側でなく救助する側へ！」 キーワード：耐震化、家具固定、感震ブレーカー

2015 年実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座 《講義録 3 限目》

《講座のメインテーマ》

防災の実践事例を学び、
地域力で生き延びる

記録：講座協力委員 紅林敏行

◆開催月日：2015年10月22日(木) 13:30～17:00

◆開催場所：KU ポートスクエア

◆本日のテーマ◆ 被災地の現実・本質を学び、地域で活かす

・前半：『震災被害の状況と減災行動について』

講師＝和知 治 氏（横浜市危機対処計画課長）

・後半：『専門的活動をサポートする市民の対応を学ぶ』

講師＝岡野敏明 氏（川崎市医師会副会長）



講義の様子



前半講師：和知治氏

前半 《震災被害の現状》

人的被害の主な原因

- ・関東大震災(火災)
- ・阪神淡路大震災(建物倒壊等)
- ・東日本大震災(津波)

《横浜市地震被害想定結果》

元禄型関東地震

- ・死者 3,260 人、負傷者 21,700 人、
重傷者 2,940 人
- ・揺れによる全壊 34,300 棟、半壊 103,000 棟
- ・出火炎上 370 件、延焼焼失 77,700 棟
- ・避難者 1 日後：5 時発災 488,612 人、
18 時発災 577,307 人



写真：防災まちづくりの活動事例DVDの画像から
左『中区本郷町』、右『南区六ツ川連合自治会』



《減災行動》 自助・共助・公助による減災

減災目標(市防災計画)設定

死者数 50%減少、避難者数 40%削減、
建物被害(全壊・焼失)50%削減 等

地震防災戦略の策定

減災パンフレット「わが家の地震対策」

「私は考える。今、地震が起きたら、どう行動しようかと」



後半講師 岡野敏明氏

後半 《日本の災害医療 (キーワード：DMAT、JMAT、トリアージ、検案)》

阪神淡路大震災の災害医療体制…統制・連携のない災害医療機能

日本赤十字社(40 程度の救護班)、自衛隊(15 救護所)、地域医師会(神戸市)、
国公立病院/大学病院の医療チーム(厚生省・文部省要請)、県内 10 か所の保健所

東日本大震災の災害医療体制

…DMATの活躍の場が少なかった。(死者・行方不明者 18,716 人)

災害対策本部、DMAT 調整本部、トリアージによる救命救急医療、医療スタッフ派遣、
医療資源補給、各地に救護所開設、避難所等の巡回診療、多数遺体の検案、
心のサポート/精神科医等による診療体制

＜映画の紹介＞
『遺体明日への
十日間』
主演：西田敏行



進行：高松清美さん

《市民サポーターに期待する

主な事項》

- ・トリアージ(誰から救急搬送するか?)、心肺蘇生、
AED 取扱法などの取得
- ・近隣医療機関リスト作成
(オフタイムも聞き出す)
- ・近隣弱者リスト作成
- ・クラッシュ症候群の理解



写真：岡野氏の講演の画像から

左『DMATの基本スタンス』、右『トリアージの手法』

2015 年実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座《講義録4限目》

《講座のメインテーマ》

防災の実践事例を学び、
地域力で生き延びる

記録：講座協力委員 佐藤忠文

◆開催月日：2015 年 10 月 29 日(木) 13:30～17:00

◆開催場所：KU ポートスクエア



◆本日のテーマ◆ 防災・減災の実践事例を学ぶ

事例1: 地域ケアプラザの地域防災支援の取り組み

講師＝金 美羽 氏（横浜市六角橋地域ケアプラザ所長）

事例2: 防災活動という絆づくり

講師＝篠原健一 氏（ひらつか防災まちづくりの会代表）

事例3: 減災・災害対応分野における行政とボランティア団体の協働活動

講師＝濱田政宏 氏（ざま災害ボランティアネットワーク代表）

事例1 地域ケアプラザ(3つの機能)と防災への取組

- ・3つの機能: 地域活動・交流、福祉・保健の相談支援、福祉・保健サービス
- ・特別避難場所として、災害発生時に開設、在宅要援護者の受け入れ、運営
- ①寝たきり・認知症の方等 ②児童 ③障がい(児)者 ④負傷者・病弱者等
- ・保健サービス「地域づくりデビュー講座」の開催(講師: 防災塾・だるま)

横浜市と災害時における在宅要援護者のための特別避難場所の協力に関する協定を締結。 ルート: 地域防災拠点 ↔ 区本部(区役所) ↔ 特別避難所



講師：金 美羽氏



事例2

ひらつか防災まちづくりの会活動

防災活動は人と人の絆づくり

防災かるた



まち歩きをとおして暮らしの中の自然とまちの歴史を体感し、減災意識を醸成
多種多様な人材で今後も防災活動を展開； 防災訓練応援

自治会や、学校や青少年への普及活動： 学校防災教育(崇善小学校ほか)

講師：篠原憲一氏

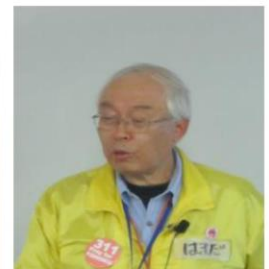
事例3 ざま災害ボランティアネットワークの活動(行政との協働事業)

行政の防災担当部署の仕事は年々増加
自治会のパワーもかつての力なし



市民の減災・災害対応活動
団体との協働事業しかない

- ・市民・職員防災啓発活動、いっせい防災行動訓練
- ・減災・災害対応講座(市職員と自治会役員対象)、災害避難所宿泊体験塾、
災害避難所開設・運営訓練、防災カフェほか



講師：濱田政宏氏

濱田さんの教訓： 講座・訓練を受けた人の1%が「学びを行動化」すれば大成功と考えるべし、
「啓発」でなく「感化」だと心がけるべし。

2015 年実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座 《講義録5限目》

《講座のメインテーマ》

防災の実践事例を学び、
地域力で生き延びる

記録：講座協力委員 中島光明

◆開催月日：2015年11月5日(木) 13:30～17:00

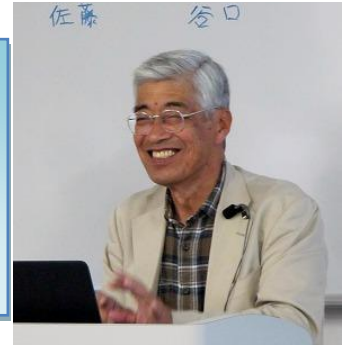
◆開催場所：KU ポートスクエア

◆本日のテーマ◆ 防災図上訓練で地域を知る

前半：各種の防災ゲームを知る

後半：クロスゲームによる災害図上訓練で学び、普及啓発活動を行う

講師＝森 清一 氏（社団法人 SL 災害ボランティアネットワーク 理事）
（防災塾・だるま 副塾長）



前半 《災害対策用ゲーム》

災害を図上で仮想体験することにより、災害対策を学ぶための各種ゲームです。

12. DIG(災害図上訓練ゲーム)＝このゲームで地域の「強いところ」「弱いところ」が浮かんできます。
13. HUG(避難所運営ゲーム)＝避難所で起こる様々な出来事に対処するかを模擬体験できます。
14. J-DAG＝発災直後に自治会が対応すべきことを体験するゲームです。
15. 目黒巻＝災害時の状況を自分自身の問題として時間軸でイメージするトレーニングツールです。

講師 森 清一 氏



後半 《災害対応ゲーム「クロスロード」の体験》

- ・クロスロードの基本ルール(5 人一組が基本、)
- ・出題に対し各自が一斉に YES 札か NO 札を出し、その問題点を整理する
- ・ 6 グループの金座布団獲得結果:2 枚～6 枚

ゲーム体験中



《グループ発表から》

- ・災害対策の課題は事前に整理しておくことが必要
- ・いろいろな考え方があることがわかった
- ・ゲームを体験して非常にためになった
- ・いろいろ悩ましいことが起こることが解った

6 グループの発表



今日の一言：「平時に災害をイメージしておくこと」&「事前に課題を見つけて対策を進めること」

2015 年実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座 《講義録 6 限目》

《講座のメインテーマ》

防災の実践事例を学び、
地域力で生き延びる

記録：講座協力委員 紅林敏行

◆開催月日：2015年11月12日（木）13:30～17:00

◆開催場所：KU ポートスクエア

◆本日のテーマ◆ 講座に参加しての総合評価と自分の目標を定める

・前半：『地域減災への取り組み』（自主防災活動の苦労話、情報収集の仕方）

講師：片山 晋 氏（防災を考える会・磯子代表、防災塾・だるま会員）

・後半：『学んだことを地域にどう生かすか、チーム別まとめと発表』

（あなたの地域や組織の現状と課題は？ 原因は？）



講座の様子



講師：片山 晋氏

前半 《危機管理の考え方》

1. 最悪の事態を想定する。
2. 疑わしくは行動する。
3. 空振りは許されるが見逃しはゆるされない。
4. 破綻より過剰対策

《災害発生直後の対応が肝要》

自治会活動の事例

- ・災害時基本行動マニュアル制定
- ・トランシーバ、バール、消火器の3点を【役員・班長・特別班員全員の自宅へ】配備
- ・防災家族カード（毎年更新）
- ・顔の見える関係づくり訓練（安否確認）
- ・安心安全ファイルの全戸配布（全員が支援者） 他

《災害時の情報伝達》

- ・まずは被害状況の収集
- ・情報伝達手段としてトランシーバを活用
- ・被災直後の最も重要な時間帯は近距離通信しかない
- ・情報伝達は、地域住民自ら行うのが有効

《J-DAG》発災直後の行動ゲーム

《地域の防災・減災の進め方》

- ステップ 1「我が家を安全にする」
ステップ 2「近隣家族の把握」（向こう3軒両隣 5 軒から）
ステップ 3「防災・減災のノウハウをまずは近隣家族へ波及させる」
ステップ 4「自治会への働きかけ」
ステップ 5「自治会として実施すべきこと」
ステップ 6「進化と波及を目指して」



進行：山田美智子さん

「活動は苦ではなく楽しいことに！」「急ぎ過ぎず、ゆっくりと一歩を踏み出しましょう！」



後半の6チームからの発表

《後半：『学んだことを地域にどう生かすか』チーム発表から抜粋》

- ・『高齢化』、『中堅・若手の参加不足』、『自治会未加入』、『個人主義』等の現状。
- ・『通電火災防止』、『初期消火力向上』、『トランシーバ等の情報伝達改善』、『要支援者情報整備』、『顔の見える関係向上』等の取り組みが必要。
- ・地域の現状と課題に住民に気付いてもらう活動を粘り強く継続。
- ・行政に頼らず住民主導で取り組む。自治会、民生委員、自治体の連携も大事。
- ・防災活動等を牽引する地域のリーダーを養成していく。



～講義を終えるにあたって～
荏本孝久防災塾だるま塾長

《塾長から》

本講座で得たことを地元を持ち帰り、地元の方々と会話を続けていって下さい。
地域の防災・減災の活動は、出来ることから地道に積み重ねていくことが肝要。